

新潟県

# 公民館月報 11



## 特集 公民館の国際交流事業

- 視 点 日本人の嫉妬
- ひろば PTA活動の思い出
- 実践記録 言葉の森の音楽会
- サークル交流 新潟おりがお祭サークル 下田あやめ会
- 素顔対見 伊藤ヨシ子（新潟市）加藤信一（村松町）

表紙 紅葉の惣滝（妙高村公民館）

# 生涯学習社会の実現をめざして

## 公民館の可能性を探る

### 自治公民館の活躍目立つ

去る10月24・25日にわたり、  
「神々のふるさと」をキャッチ  
フレーズとする、島根県松江市  
の県民会館を中心に第19回全国

公民館研究集会在開催された。  
研究主題を「公民館の可能性  
を探る、生涯学習社会の実現を  
めざして」とし、三千有余人の

参加者が十三分  
科会に別れて熱  
心な研究協議を  
展開した。  
分科会協議に  
ついては、例年  
のことながら都  
市の大規模公民  
館から農山村の  
小規模公民館、  
さらには自治公  
民館・コミュニ  
ティセンターな  
ど種々雑多な公  
民館の集まり  
だった上に、ど  
の分科会も百人  
を超える大所帯  
で、中には三百  
人を超える超過  
密分科会もある  
など、共通の土  
俵での研究協議

参加者が十三分

科会に別れて熱

心な研究協議を

展開した。

分科会協議に

ついては、例年

のことながら都

市の大規模公民

館から農山村の

特色として上げられる点は、  
参加者の層が自治公民館関係者  
が多く(基調発表の内容につい  
ても自治公民館の実践事例を主  
役にした実践事例を取り上げる  
など)、自治会での活躍やコミセ  
ンと公民館との連携などが多く  
取り上げられていた。

もう一つの特色は、第15期中  
教審の第一次答申が出されたば  
かり(平成8年7月)のことも  
あってか、学校週五日制の完全  
実施を視野においた問題が取り  
挙げられ、家庭の教育力や地域  
の教育力を高めるための方法、  
そのための公民館の役割が多く  
の分科会で関心を集めていたよ  
うである。

「お祭りの」とは言いながら  
も、中国・四国ブロックの特色  
の生かされた全国大会という印  
象の強い研究集会であった。

本原から、新潟市東地区公民  
館主事大崎信子氏が、家庭教育  
分科会の基調発表者として、新  
潟市のユニークな実践事例を発  
表し高く評価された。

その発表概要は、乳幼児を持  
つ親に対する学習支援として、  
公民館長等管理者研修終了

10月2日(水)、県立生涯学習  
推進センターならびに当県公連  
共催の公民館長等管理者研修会  
が同センターを会場に開催され

以前ボランティアによる保育室  
の運営を行っていたものを、  
予算措置を講ずることに成功す  
るに至った過程についてのユ  
ニークな内容に参加者の関心を  
集めていた。

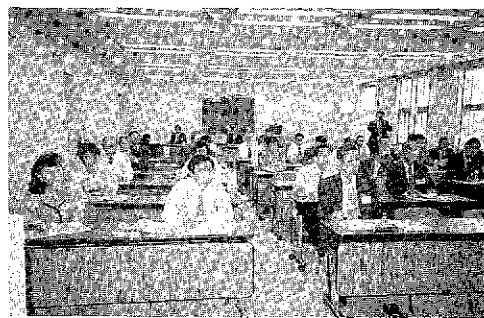
「災害と公民館」の研究主題  
のもとに、西宮市中央公民館長  
西村治氏を講師に招き、阪神淡  
路大震災に遭遇した公民館の体  
験を基にしたの、災害時におけ  
る公民館の対応についての、迫  
真的な講義内容であった。

例えば、極限状態における人  
の心の有り様、パニック状態か  
ら平静を取り戻した後のエゴイ  
ズムむき出しの避難所生活、そ  
うした中で公民館の事業の在  
り方、あるいは、住民自治の在  
り方など、さらには、災害の無  
い平常時から配慮しなければな  
らないことなど、体験者のみが  
知る公民館の在り方について研  
修を深めることができた。



基調発表の大役を果たす

## 大崎 信子 氏



### 主題『災害と公民館』

た。

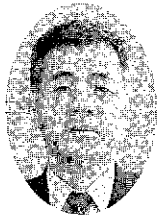
「災害と公民館」の研究主題  
のもとに、西宮市中央公民館長  
西村治氏を講師に招き、阪神淡  
路大震災に遭遇した公民館の体  
験を基にしたの、災害時におけ  
る公民館の対応についての、迫  
真的な講義内容であった。

例えば、極限状態における人  
の心の有り様、パニック状態か  
ら平静を取り戻した後のエゴイ  
ズムむき出しの避難所生活、そ  
うした中で公民館の事業の在  
り方、あるいは、住民自治の在  
り方など、さらには、災害の無  
い平常時から配慮しなければな  
らないことなど、体験者のみが  
知る公民館の在り方について研  
修を深めることができた。

県社会教育委員会会議

会議報告抄①

会長 今井昭友



申「生涯学習社会における学校の役割について。⑤県市町村の生涯学習推進等の現状等について説明。

十月十五日、第一回県社会教育委員会会議を開催。

最初に平野清明県教育長は、「本県の青少年を取り巻く状況や、高齢者の生きがい支援の場、学習情報の発信の拠点としての対応などから、公民館の在り方、活性化策を提言していただきました。」旨挨拶された。

次に十七人の委員と事務局を

紹介。続いて、議長に原田新司委員を再任、副議長には私が選出された。次に事務局から、県の生涯学習、社会教育をめぐる状況として、①二十一世紀を展望したわが国の教育の在り方②地域における生涯学習機会の充実方策。(生涯学習審議会会答申)③県第七次総合教育計画について。④県生涯学習審議会答

視点

青い目の外国人に 限らず、日本人は在日外国人に対して最初は大いに親切です。

「最初はやややさしくしてくれるが、自分たちよりすぐれた点がある

た。他の外国のようにさまざまな価値観が入り乱れて、その調整の中で暮らすことがありませんでした。ここからくる日本人のトラブルを、外国人は「島国根性」として非難するのです。また、この女性のように「嫉妬」と

日本人の嫉妬

相沢 勇

環日本海交流の舞台裏でも、急激に進む農村僻地の国際結婚でも、県内のいたるところでこの親切さが発揮

ことに気づくと、日本人はすぐ嫉妬して、私

くようになることがあります。

「これは、東南アジア出身のある在日女性の言葉です。

かつて日本は、何百年間もの鎖国政策と島

の外国生活で、私も抵抗を感じた一人です。

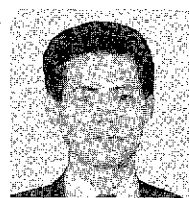
なるほど、わたした

価値観に浸ってきまし

校長)」

P T A 活動の思い出

原田 久義



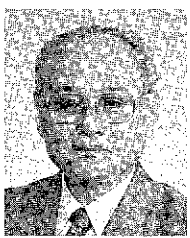
私は三島の最南端で長岡市との境界に位置する「鳥

T A 事業の先生方依存からの脱却などに取り組んだことです。もう一つの大事業は、校舎の改築問題でした。校舎の老朽化が進む一方で、児童数が減少し、学校存続が危ぶまれる状態になりました。そのころ、労働力不足から業たばこの栽培をやめたことから畑が荒廃し雑草が茂りはじめました。そこで、町の指導を戴きながら、人口の増加と働き場所の確保を前提に区画整理事業を始めました。一部工場用地を含む三百区画分でした。準備期間を含めて約八年の歳月をかけて完成しました。その結果、人口が少しづつ増え始めました。これからも増える目処が立ちました。

ひ ろ ば

越」町内に住んでいます。職場も地元で、道路を隔てて小学校がある環境下で約二十年間過ごしています。職場が地元であったことからいろいろな経験をさせてもらいました。消防団への入団に始まり、公民館振興員、小中学校 P T A 役員、土地区画整理事業、ほ場整備事業役員などです。現在は地区のビレッジビジョンづくりに取り組んでいます。このうち一番印象に残っているのは、学校が近くにあったこともあって P T A 活動の思い出です。

その一つは、授業参観というと母親、役員会となると父親が出席するというのがそれまでの習わしでした。しかし、子供を知っているのは母親なのだからと母親から役員会に出席してもらうため、専門部の副部長にお願いしたことでした。また、P



こと気づくと、日本人はすぐ嫉妬して、私

くようになることがあります。

かつて日本は、何百年間もの鎖国政策と島の外国生活で、私も抵抗を感じた一人です。

校長)」

その結果、昭和六十三年には校舎の全面改築へと話が進み学区民の協力を求め、署名運動を展開し請願書の提出へとすすみました。そして、町当局、関係者の強力なご支援を賜り、昨秋新校舎で学区民挙げて百周年を祝いました。

(三島町公運審委員)

執筆者紹介

渡部寿(ひき)子氏は新潟市鳥屋野地区公民館嘱託として活躍している。勤続九年目を迎えるベテランである。

担当する業務は、国際交流事業のほか、家庭教育事業にも取り組み、中でも公民館における「保育室を考える会」の支援などに活躍している。

国際理解や交流関連の事業では、民族音楽コンサート・外国青年交歓会の活動などの単発イベントから、本稿に見るような継続学習活動など、国際化社会に対応する公民館の在り方について実験的な活動に精力的に取り組んでいる。

を追って  
交流事業

渡部 寿子



表1) 平成6年度 エスニック料理教室学習プログラム ~外国料理の実習を通して異文化を理解する~

No	月/日	内 容	講 師
1	6/29(木)	トルコの家庭料理	新潟大学歯学部留学生 ジャンヌ・アルバスタン
2	7/19(木)	ベンガラデンの家庭料理	留学生工学部院生 モハメド・ルール・ミラ夫妻
3	8/28(金)	スリランカの家庭料理	料理講師 渡辺アロー
4	9/24(土)	モンゴルの家庭料理	新潟大学留学生人文学部院生 トルバト・バホルマー
5	10/26(日)	フィラデルフィアの家庭料理	英会話講師 カトリナー・ライト

会 場 鳥屋野地区公民館 3F調理実習室  
時 間 午前10時~午後1時  
対 象 成人24人(先着順)  
参加費 料理実習費(材料費) 1回1,000円~1,200円

一、はじめに

近ごろ、産業や経済等様々な分野で日本の国際化が進み、私どもの地域社会でも外国人の存在が身近に感じられるようになってきました。

しかし、だからといって、国際交流というといまだに身構えてしまう人が多いのではないのでしょうか。一般の市民にとってはまだまだ日常的に国際交流や異文化を体験できる機会は少ないと思われまます。

そんなわけで、当新潟市では国際交流協会をはじめ様々な団

体が国際理解や国際交流の活動を進めています。例えば、ホームステイを通じての交流を進めている団体、アメリカ・アジア・ヨーロッパなどの各国・各地域との親善を深める団体、さらには国際ボランティアセンターによる国際協力に取り組んでいる団体等々たくさんあります。

そうした数多くの団体の活動が活発に展開されているにもかかわらず、地域の中に入りますと、「地域の国際化」に向けての活動となるとまだまだです。市民館の課題だともいえます。

したがって、先に記した国際交流諸団体等の活動とは別に公民館には公民館なりの国際交流や異文化理解の事業が必要だと思えます。

そのような考えから、当鳥屋野地区公民館では、早くから英語・ロシア語などの外国語講座とか外国料理教室、民族音楽コンサートなどの事業に取り組みしてきました。それらの事業はそれなりに役割を果たしてはいますが、これからの「地

域の国際化」に向けての公民館事業として考える場合には、より一層国際理解や国際交流という点を焦点化した事業の必要が考えられました。そこで、単発的なイベントとは別に、「組織的、継続的な事業としての「学習活動」について実験的な意味をこめて取り組んでいます。

二、「エスニック料理教室」への取組

「エスニック料理教室」については、平成4年度から開設していたもので、3年目を迎えた平成6年度に捉え方を変えました。つまり、単なる「外国の料理教室」という捉え方から「食文化の理解を通じて異文化の理解を」ということにならぬことをおこなうことにしました。

その特色を浮き上がらせるべく毎回様々な国の民族料理を出身の講師によって指導してもらい、実習と会食の後に必ず講師を囲んでの交流会を設けることにしました。(表1参照)

1、基本的に重視したこと  
「教室」の展開に先立って留意したことは、国際化社会というの、肌の色や言葉や国籍が違っていても同じ人間なのだという認識を持つことが何よりも大切なことだということです。外国人に対するいわけではない優

越感やコンプレックスを排除することが国際化の基本的な考え方として重視しました。そのため外国の文化と日本文化の違いを認識することにより、日本の文化や自分自身を見つめなおすきっかけにすることを基本に据えて事業を展開しました。

2、講師に人を得ること  
「料理教室」の展開の中で特に好評だったのが二回目の「ベンガラデンの家庭料理」の教室でした。留学生の講師夫妻から指導して頂いたのですが、会食の時のことです。鮮やかなオレンジ色の民族衣装「サリー」を身にまとった夫人が会場に現われると、一段と雰囲気華やかなり、受講者はみな衣装に興味を惹かれてしまいました。

それに加えて講師夫妻が気さくで親しみやすい人柄だったこと、さらには、日本語が上手だったことにより、話し合いは民族衣装に始まって、食文化、ライフスタイルの違いに至るまで交流の輪は尽きずに続き、おおいに盛り上がりを見ました。その成功の要因は、講師に適切な人を得たからでした。ですから、この「エスニック料理教室」は成功だったと思えました。受講者からは大変好評でしたし出席率もよかったです。

3、仮設を踏み台にして

〈表2〉

平成7年度

異文化交流セミナー学習プログラム

No.	月/日	内 容	講 師
1	7/19(水)	開講式、オリエンテーション、 伝統文化のあふれるイギリス 人の生活にみるライフスタイル の違い	英会話講師 カリ・ローソン
2	7/26(水)	パネルディスカッション「日 露共同制作劇『ブンナ』の顛 末」原作劇化によるロシアと の文化交流	ブナフ実行委員会 幹事、文芸評論家、市 国際振興職員3名
3	8/2(木)	マンゴーシアの現状とアセアン (ビデオ「疑惑のアセアン5 ヶ国の旅」より)	新潟大学マンゴーシア人留学生 エミリア・ザカリア
4	8/9(水)	古典に見る半島の伝統文化	中国語講師 侯鏡(ホー ルイ)
5	8/30(水)	Enjoy English 英語の歌、Q&A、ゲーム	英会話講師 パトリシア・カルデロン
6	9/6(水)	ファッション流行の発信地 フランス人のおしゃれな色彩 感覚とフランスの魅力	フランス語講師 浅元マルチーヌ
7	9/13(水)	タイの家庭料理実習と交流会 「トムヤムクン」ほか	新潟大学タイ人留学生 ワムオンスリー、フヤアヌ
8	9/20(水)	パネルディスカッション「日 本と海外の子育ちの違い― 身国と留学体験からの比較―	県国際交流ボランティア 相談員、保育士、デザイナー
9	9/27(水)	白熱の重「私のメキシコ」を 語る(スライド&ビデオ鑑賞)	スペイン語講師 ラウル・メディナ
10	10/4(水)	「エスニック&ケーキでフリー ト・キングドム」 21世紀に向けての国際交流 構想	文芸評論家と文化評論家 と公民館職員で

・会場 高屋野地区公民館 3F 講座室  
 ・時間 午前10時～12時  
 ・対象 成人30人  
 ・参加費 無料(料理実習材料費1,000円、最終回飲食代300円)

# シリーズ 課題 公民館の国際

新潟市烏屋野地区公民館  
囑託

しかし、受講者に講座終了後の感想を訊ねますと「色々な国の民族料理を作ることに興味を持った。」「家に帰ったら早速家族に今日作った民族料理を食べさせたい」といった反応が殆どでした。

料理実習という学習内容だけで、しかも、月一回のペースでは学習の継続性も不足し、「食文化の理解をとおして異文化の理解や交流を深める」という当初の仮設(ねらい)を検証することができませんでしたので、この仮設を手がかりにして新しい事業を工夫しました。それが「異文化交流セミナー」です。

三、「異文化交流セミナー」への挑戦

くねらいに直接向きあつて、そこで、平成7年度は前年度の「エスニック料理教室」をより充実させる形で「異文化交流セミナー」を開設しました。

このセミナーでは、講師との交流を通して異文化に対する理解と認識を深めることを直接ねらい10回コースにしました。また、市民が異文化に対する関心を深める動機づけにと、毎回その国の特性を生かした話題性のあるテーマを取り上げました。特に講師にお願いして昨年の

「エスニック料理教室」で好評だった民族衣装などの品々を持ってきて頂きました。このように、毎回の内容が変化に富んでおり、講師と受講者との間の質疑応答が活発でコミュニケーションも深まり、このセミナーは盛況でした。しかし、残念だったことは参加者相互の話し合いの時間が十分にとれず最終回に空ったことでした。

セミナー参加の感想を聞きますと、それでも「世界のいろいろなことが分かりかけ、もっと知りたい」とか「マスメディアで報道される国のイメージと違って、本当の生きた外国が理解できたような気がする」という意見もあり、動機づけとして昨年度よりも事業のねらいに近づいたと思います。

四、まとめ、新たな課題

「エスニック料理教室」から発展して「異文化交流セミナー」の事業を展開してみても、新たな課題があることに気がつきました。というのは、このような学習活動も重要であるに違いありませんが、外国人にも公民館が気軽に利用できるような開かれた公民館となるのが国際化時代に向けた公民館の在り方といえます。

それには、公民館の看板や標

示に外国語を加えるとか、ロビーにもいくつかの外国語による展示や案内板を掲げるなどの配慮も必要になります。

また、地域のボランティアによって交流の輪を作っていくような草の根の地道な活動も必要になります。そんな活動を援助するのも公民館の役割です。

公民館の国際交流というと、どこの公民館でも、すぐに外国語講座とか外国の料理教室、あるいは国際理解講座などといったイベントが定番となつていきます。それらも大切な活動です。

(私自身も料理教室や交流セミナーの実践報告しかしていません)が、もっと大事なのは、どうしたら自分たちの地域を世界に開かれた社会に発展させることができるのかという問題意識を持つことだと思います。

繰り返しになりますが、これまでは、国際交流というと、外国人をお客様として迎える行事になりがちでしたが、地域の一人である生活者として迎えることが必要になります。そうした新しい課題をふまえて、心を開いた交流にするような活動が公民館の役割だと思います。

「地域の国際化」のために、そのことを根づきに据えてこれからも国際交流事業に取り組みたいと考えています。

# 実践記録シリーズ(13)

## ことばのキャッチボール

津南町公民館

津南町は本県の最西南端に位置し、長野県との県境の豪雪と過疎の町である。過疎の山村の多くがそうであるように、津南町も又二分にもれず、アジアの各地から花嫁を迎え三十組余りの世帯が生まれている。結婚後すでに十年以上になる世帯から、三・四年の世帯と様々であるが、彼女たちの共通の悩みは「言葉」にあったことから、公民館での「日本語の学習」をおして過疎の町の国際化の実態を紹介してもらった。

### 一、はじめに

今年春、津南町の外国人花嫁を対象として、一泊二日の旅

「ふれあいバスツアー」を実施した。韓国・中国・フィリピン・

ペルーからの花嫁たち二十八人が子どもづれで参加した。

一日目は、所沢市の中国帰国者定住センター、二日目は西部

園で親子が思いっきり羽根を飛ばした。しかし、初めのうちは

同じ国の者同士がかたまっていたり、どことなく雰囲気も硬

かった。でも、時が経つにつれて次第に打ち解け、喚声があがる

ようになった。そうした光景から、その硬さは、言葉の壁があ

ったことと、それぞれの世帯が点在する山村集落に散在して

いるためコミュニケーションが不足していたことによるものだということがわかった。

二、ことばのキャッチボール

そこで、まず「言葉」と「文字」を一日も早く身につけさせてやりたい、そのうえ、異国の花嫁相互にコミュニケーションを深める必要があること、それにもまして、一日も早く津南町の住民として暮らせるようになる必要があることから、言葉の理解をねらった学習教室を開設することにした。それが「ことばのキャッチボール」である。

毎週木曜日の午前9時半から2時間が学習時間である。毎回全員出席というわけにはいかなかった都合のつく者が集まること

になっており、たいしては七割から八割の出席者がいる。

教材には、新聞折り込みのチラシなどを利用し、野菜や日用品の広告文字の読取りや値段についてなど、文字の学習とともに日用品の活用など暮らしの問題解決に迫るよう一石二鳥三鳥をねらった効果的な学習活動を展開している。



カンジむつかしい

家族一などの作文にも挑戦するようになってきている。

言葉の理解が深まるにつれて童謡にも手をひろげ、幼児の背中をトントンたたいてリズムをとりながら親子で顔を見合わせ童謡を歌っている微笑ましい姿が目につくようになった。また、「わたしたちの町をもっとよく知ろう」をテーマにバ



練習 練習 練習 練習 練習 練習 練習 練習

思案になりやすい異国の花嫁も徐々にではあるが、目が外に向き、行動しようとする姿勢が見えるようになってきた。

このように「ことばのキャッチボール」の開設によって、公民館が言葉や文字を覚える場所であるとともに、だれにも遠慮なく幼稚な日本語を大声で喋れること、母国の言葉も堂々と話せる場所であることを喜んでいる姿に公民館ならではの思いを強くしている。

### 三、「教室」の先を見つめて

津南町のほか、中里村、十日町市、小千谷市からも参加する仲間が現われた。みなそれぞれ母国を同じくする外国人花嫁たちである。彼女等に接して何よりもたのしいのは、活力があり、他人の子も間違ったことをすれば叱るし、義理がたいし、礼儀正しい。そして夫を大事にすることである。

花嫁たちの学習意欲は旺盛で日本語のきまり(数詞、簡単な敬語、肯定と否定、現在と過去助詞など)の習得は少しずつではあるが上達している。ひらがなやカタカナの読み書きや簡単な漢字の読み書きもできるようになってきている。また、ふるさととの父母に宛てた「手紙の書き方」や「私のふるさと」「私の

スによる町内めぐりをして、役場、病院、交番、学校、店、銀行、レジャー施設、主な集落などを知り、津南町の町民としてとけこむ努力もしている。

町民としてとけこむ努力といえば、地域の民踊に熱が入り、民謡流しに参加する者も一人や二人ではなく増えてきている。言葉や文化の違いから引込み

十二月には、彼女等の夫や子どもはもちろん、家族のみんなが集まって団欒の会を開くつもりである。言葉の学習を通して家族ぐるみの国際交流の輪を広げたいし、やがては、地域の人々と一緒になって、暮らしのなかに国際化の新しい波を作りあげていこうと意気込んでいる。(教委委員 山下克利記)

# サークル交流

## みんなで「おりがみ」

### 楽しみましょう

#### 新津おりがみサークル

一枚の紙から創り出される「おりがみ」の世界に魅せられて折り始めた「おりがみ」。一人でも多くの人達に親しんでほしい。そして一緒に工夫し、楽しみたい。そんな思いで「おりがみサークル」を平成元年に発足しました。「おりがみ」って思っていたより難しいのね。「頭の体操になるわね。」等と話しながら、お互いに教えあひながら折りに上げています。



同じ作品でも折り手によってその表情が微妙に違ったものができる事、それがおりがみの魅力ともなっています。

毎月第2、第4土曜日に行なっていますが、第2土曜日は小学生の子供達が参加するので、材料費は、二〇〇円とし、簡単に遊べて楽しめる「おりがみ」を、と心がけています。又、特別講習としてマニアックな「おりがみ」も取り入れるようになっています。

どんな時でも、どんな所で誰とでも気軽に楽しめる「おりがみ」、御一緒にしませんか。

(新津おりがみサークル)

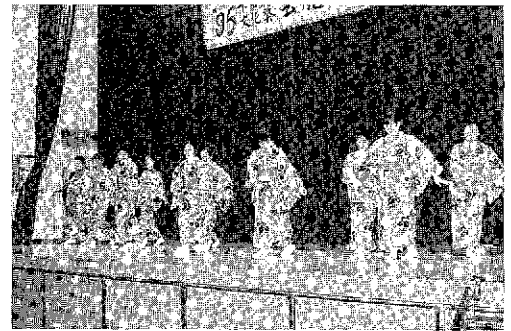
代表 真野とみ記

ボケまいね

下田あやめ会

「あゝ今日も暑かったネ」

「田んぼに水がこなくて大変」と、月曜日の夜七時半になると、中央公民館の集會室で言葉と顔を合わせる私達は、六十歳を超えた中のばあちゃんばかり、子育て終了、孫育ても一段落し、姑さんの勤めもそれなりになった人達ばかり十数人で舞踊のサークルを作って八年



目。自分のことは自分で責任の持てる老後にしたいねーと日常動かさない体の部分をリズムにのせて動かしストレス解消したり、漬物談義をやったり、とても楽しいサークルです。

踊りのうでは、年数に関係なく上達しませんが楽しむ事を知った私達は、この喜びを他人にも味わってもらいたいと過日デイサービスに敬老の日慰問アトラクションを一週間やり、喜んでもらえたことに喜んでいる

昨今でもあります。これからの踊りの進歩は望めませんが自らを高め人の役に立つ楽しいサークルにしてゆきたいと願っております。

(下田村あやめ会)

代表 川沼豊子記

五泉市公民館・主幹

伊藤ヨシ子 氏

この四月、長年(二十八年)勤めた保育園から公民館へ。

その間、レクリエーション、コーディネート資格を取得したり、各種の生涯学習の講習会等に積極的に参加し自己研鑽を積んできた。

公民館では、その能力を発揮し、白寿大学(高齢者学級)の



レクダンスの講座を担当。受講生から大変親しまれてい

## 素顔拝見

村松町公民館・主事

加藤慎一 氏

公民館勤務三年目を迎えます公民館活動に磨きがかかってきた感じがします。仕事に対する情熱はデートもぶつとばす?と思わせるほどです。青年講座・親子サイエンス教室・英会話教室・成人式・芸能祭・視聴覚教室・寿大学等々公民館活動を一手に引き受け頑張っています。

特に高齢者学級の寿大学では三百余人の大勢のお年寄りから「加藤さん・加藤さん」と孫のように呼び親われる人気者でもあります。趣味はスポーツ万能

る。そんな彼女、異動で公民館に来た当初、経理事務が始めてのため苦戦して、会計課から電話がくるとドキッとし、何キロも瘦せたとか、しかし、もぢまへのガッツと努力で今では体重も元にもどり仕事も順調にいつている。

「天高く馬肥える秋」公民館としては「芸術・文化の秋」一年で一番、忙しく、楽しい時季、ヨッチャんの明るいフアイトで、今年もがんばろう。(五泉市公民館 高野 敏郎 記)



タイプ。中でも自動車の運転が大好き。

休暇は、愛車で山に海にと仲間を駆けまわっている行動派。更に休暇を利用してのボランティア活動も旺盛です。ポイスカウトの指導者副隊長として活躍するナイスガイです。写真よりも実物の方が数段カッコいいようです。『よい嫁さん』ということが公民館全職員の願いであります。(村松町公民館長 長澤信康記)

資料紹介

社会教育・そして生涯学習

山北町 本間 清 著

山北町教育委員会の  
本間清氏(生涯学習係  
長)から「社会教育・そ  
して生涯学習」と題す  
る冊子が贈られてきた。  
本年10月10日に発行

公民館報「守門」

立村40周年記念特集号



公民館報「守門」の立村40周  
年記念特集号(第215号)が  
贈られてきた。B5判100  
ページからなる冊子である。  
巻頭言「はじめに」において  
公民館長(教育長)高橋金一氏  
は、本誌「館報守門」特集号は

民館)を愛する心情によって一  
つ一つの課題を着実に解決し、  
今日を迎えているのであって、  
そのたゆまざる努力に敬服す  
る。だから、単に「自分史」と  
してだけでなく、山北町の社会  
教育(公民館)の充実発展の歴史  
とも見ることが出来る迫力と信  
念が表れた研究誌といえよう。

四十年の村の足跡を追いつつ、  
21世紀をいかに進むべきかの、  
村政の道しるべを探る手がかり  
にしたいと記している。  
内容としては、過去四十年の  
詳細な年譜に続いて、後段では  
「村づくりは人づくりから」を  
スローガンとする現在の村の政  
治課題(地域課題・生活課題)

表紙解説

『紅葉の惣滝』

日本の滝百選にも選ばれ  
た惣滝。  
妙高山の山懐にある燕温  
泉から歩いて片道約十五  
分。標高一、三〇〇メー  
トル、落差八〇メートル。

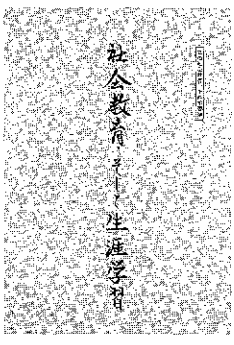
あとがき

◆10月30日づけ新潟日報紙上に  
新潟市内公民館(10館)の公選  
審議長会議が開催されたと三段  
ヌキ活字で報道されていた。  
意見交換の内容として「公民  
館活性化のために、公民館内部  
の活動だけでなく、もっと地域  
との結びつきを強めよう」と  
いったことの由。  
今、公選審に問われている問  
題の凝縮と受けとめたい。  
(上村記)

されたものでB5判125頁か  
らなる重厚な研究誌である。  
氏の発刊の言葉によれば、平  
成二年四月から自分が担当した  
公民館報「さんぼく」、町文化協  
会報「山北文協」などに書いた  
ものなど、今じっくりと読んで  
みるとなにか気恥ずかしい文で  
すが、これもその時々を考えて  
いたことなので、いわば私の「自  
分史」の一部ですとある。

平成2年という、全国的に  
新しい「生涯学習」の波が大き  
なうねりとなって寄せてきた時  
代。まさに、生涯学習という理  
念と実態とが錯綜して県内に混

社会教育・そして生涯学習



貨幣の歴史

本間重蔵 著

新潟日報事業社発売



図書紹介

誰にも  
わかる  
貨幣の歴史  
豊栄市中央公民館の  
公選審委員本間重蔵氏  
が「誰にもわかる貨幣  
の歴史」を刊行した。  
氏の序文によれば、  
「貨幣が生まれたこと  
によって人間にいろい  
ろな欲望や葛藤が広が  
り、そのための悲劇や  
喜劇が繰り返されてき  
た。『貨幣の歴史』は人  
類の生きざまの歴史で  
もある。  
本書はわが国の「貨  
幣の歴史」を時代的に

発行所 新潟県公民館連合会  
〒951  
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【TEL・FAX (025)224-6073】  
発行人 会長 今井昭友  
編集人 事務局長 上村 捨二郎  
【定価1部150円 年共1,800円】